

【 新型コロナウイルス 】令和3年6月1日（火）保健福祉委員会

一 ワクチン接種について

ワクチン接種についてですが、国では、65歳以上の高齢者のワクチン接種を7月末までに前倒しして終わるよう取組みを進めています。接種が進まない要因となっていたワクチン供給の懸念が解消されましたが、医師をはじめとする打ち手の確保や、予約などにおけるシステムの不具合など、課題を抱える中での取組になりますので、以下、何点か伺います。

（一） 接種の状況について

道内の医療従事者など約20万2千人を対象とした接種は、5月30日現在で、1回目の接種を終えた方は約18万5千人、2回目を終えた方は約10万6千人となっており、接種率はそれぞれ91.5%と52.2%まで進んできています。

約166万人の高齢者については、現在の接種状況と、7月末までに終了を見込んでいる市町村の状況はどのようになっているのか、伺います。

（答弁：感染症予防対策担当課長 吉田亮輔 ）

- ・新型コロナウイルスワクチンの高齢者の接種状況は、5月31日現在、本道の65歳以上の高齢者約166万人に対し、
1回目の接種を終えた方が、181,953人で、約11.0%
2回目の接種を終えた方が、8,002人で、約0.5%

7月までに高齢者の方への接種を完了するとしている市町村は、5月21日時点で、147市町村で82.1%

(二) 接種場所について

ワクチンの接種場所についてですが、公共施設や規模の大きな病院で集団接種するもの、診療所などかかりつけ医で個別に接種するもの、移動診療所などで行うものなどがあると考えますが、道内の市町村の状況はどのようになっているのか、課題と対応を併せて伺います。

(答弁：感染症予防対策担当課長 吉田亮輔)

・5月14日現在、集団接種会場は、127市町村で270カ所が設置予定となっており、医療機関における集団接種は、55市町村で70カ所、医療機関における個別接種は118市町村で1,600カ所予定されている。

・課題の主なものは、医師をはじめとする接種を担う医療従事者の確保となっており、道では、医師会など医療関係団体にワクチン接種について強力を呼びかけるとともに、厚労省が開設しているキー・ネットの活用や、ナースバンクを紹介

するなどして、医療従事者が確保出来るよう、働きかけている。

(三) 優先接種について

ワクチン接種は、今後、16歳以上で基礎疾患のある方や高齢者施設等の従事者、一般の方への順に進んでいきますが、道内でも主流となっているイギリス型の変異株は、子どもへの感染も強いとされており、小学校の児童や保育園児などへの感染が広がっています。

教職員や、子育て中の方々も優先する必要があると考えますが、道として、どのように考えているのか、また、キャンセル等で余ったワクチンへの対応が求められていますが、道内の状況と、道はどのような助言等を行っているのか、併せて伺います。

(答弁：感染症予防担当課長 吉田亮輔)

- ・道では、国の考え方の下、医療提供体制の確保や重症化するリスク等を踏まえ、まずは、感染症患者に対応する医療従事者等、次に、重症化リスクの高い65歳以上の高齢者の方、基礎疾患を有する方など、
- ・さらに、一般住民の方としているところであり、一般住民

の方々の中で、誰を優先的に接種するかについては、現時点では、市町村が判断するものと考えている。

・ワクチンに余剰が生じた場合の取扱いは、道では、市町村において、即応可能な接種対象者のリストを作成するなどし、できる限り無駄なく活用できるよう、周知してきたところ。各市町村では、キャンセル待ちのリストを作成するほか、余剰が生じたワクチンを地域での感染状況を踏まえ、消防隊員に接種するなど、様々な工夫が行われている。

(四) 接種の促進について

高齢者へのワクチン接種を促進するため、問診や接種、経過観察、ワクチンの希釈などを行う医師や看護師等の医療従事者の確保や、バスを活用した巡回診療などにより、接種体制を拡充する必要があります。

道として、こうした市町村の取組をどのように支援していくのか、また、石狩管内などの特定措置区域内での接種の促進は非常に厳しいと聞いています。他の区域への感染拡大を防ぐためにも、道による集団接種会場を設置するなどの対策が必要と考えますが、どのように考えているのか、併せて伺います。

(答弁：感染症対策局長 佐賀井祐一)

・道は、重症化リスクの高い高齢者の方々に、一日も早くワクチン接種を受けていただくことが、重要と考えていることから、医療関係団体に対し、ワクチン接種の際の協力を依頼しているほか、市町村に対し、広域接種などに取組んでいる市町村の情報や接種会場および非接種者の送迎を行う事業者の情報などを提供するなどしてきた。

・今後も引き続き、これらの取組を進めるとともに、地域における感染状況や医療提供体制の状況、さらに、医療従事者の偏在の状況を踏まえ、医療機関による個別および集団接種の働きかけや市町村が行う集団接種に対する支援に取り組んでいくほか、道による集団接種会場の設置についても検討するなどし、市町村に対する支援に努める。

(五) 今後の取組について

ワクチン接種が本格化しますが、まずは高齢者への接種にしっかりと取り組み、そのノウハウを次の段階の円滑な接種の推進に生かしていく必要があります。広域自治体として市町村の取組を支えていく道の役割は極めて重要であり、道として、今後のワクチン接種の推進に向けて、どのように取組んでいくのか、

感染症対策監の所見を伺います。

(答弁：新型コロナウイルス感染症対策監 原田朋弘)

・この感染症の発症を抑えるとともに、重症化リスクの低減により、重症者や死亡者の発生を減らすためにも、接種を希望される道民の皆様が、安心して円滑に接種を受けていただける体制を一日も早く整えることが重要であると認識。

・感染症対策本部指揮室と振興局が連携し、市町村における課題などの把握に努めるとともに、他市町村の好事例や非接種者の送迎に関する情報を提供するなど、地域の実情に即した支援を進めており、今後も、医療関係団体などと連携を図りながら、医療従事者の課題の解決に取り組み、市町村の接種体制の強化に資するよう、あらゆる手立てを講じて、一日でも早く希望される方に接種が行われるよう、積極的な支援に取り組んでまいります。

二 医療体制について

(一) 自宅での死亡事例について

先般、札幌市内において、感染者の方々が、ご自宅でお亡くなりになられるなど、この間、他都府県で多く発生していた事案が本道でも見受けられるようになった。こうした事案の概要と道の受け止めを伺う。

(答弁：地域支援担当課長)

・道内では、これまで5件の死亡事案が、いずれも札幌市において発生。

- ・市保健所によると、亡くなられた5名の方は、
- ・自宅療養中であった方が1名
- ・宿泊療養施設への入所待機中であった方が2名
- ・医療機関への入院調整中であった方が2名

市保健所が健康観察をしていたものの、容態が急変してお亡くなりになられたと承知。

・本道では、4月以降、感染者が急激に増加し、地域によっては、医療提供体制が極めて厳しい状況である中、自宅で療養されていた方が亡くなられたことは非常に残念であり、改めて、患者の方々が安心して療養できる療養体制の構築が重

要と認識。

(二) 医療体制の構築について

自宅や高齢者施設等、宿泊療養施設、医療機関など、療養する場所も様々ですが、感染者は、どういう医療体制の中で対応するのか、症状や身体症状によっても異なってくるものと考えますが、感染者の療養に際する道の基本的な考え方はどのようになっているのか、今後、道として、どのように療養体制の構築に向けた取組を進めて行くのか、伺います。

(答弁：新型コロナウイルス感染症対策監 原田朋弘)

・全道に広がっている中、道では、必要な医療や適切な医療が受けられるよう、国の考え方にに基づき、医師が、入院の必要性を判断した上で、入院を要しないとされた軽症者や無症状者については、宿泊療養施設又は、自宅で療養することとした。

・その際、重症化リスクの高い高齢者やハイリスクの疾患がある方などと同居し、こうした方々に感染させるリスクが高いと判断される場合などに宿泊療養施設への入所を調整し、それ以外の方を自宅での療養としている。

- ・道では、今後とも、『病床・宿泊療養施設確保計画』に基づき、
- ・一般医療と両立可能な病床や、宿泊療養施設の確保を着実に推進。
- ・自宅療養される方への食品や日用品の配布、パルスオキシメーターの貸与、保健所による健康観察や相談対応、かかりつけ医による外来診療や、訪問診療、オンライン診療による在宅医療の提供などの整備を行っており、今後も、療養者の立場に立った体制の強化に向け、積極的に取り組む考え。

【 指 摘 】

今後、職場などでの接種や、大学生や高校生、対象範囲の拡大が検討されている中学生に対する学校等での接種など、様々な対応が想定され、より多くの方にワクチン接種を受けていただくための働きかけなども必要になると考えます。

道には、来年2月末とされているワクチンの接種期限を見据えた、適切な対応を求めています。